

(3) 人間形成と思想教育部会

教育部会名	人間形成と思想
部会長名／作成者名	相澤直樹
概 要 (2 ページ)	
(1) 組織・運営について 令和 5 (2023) 年度の本教育部会は、大学教育推進機構 2 名、人文学研究科 8 名、国際文化学研究科 2 名、人間発達環境学研究科 21 名、保健学研究科 3 名 の計 36 名から構成され、教育部会長 1 名 (人間発達環境学研究科)、幹事 2 名 (人文学研究科) が世話役になり、運営された。 (2) 実施状況について ・開講科目、カリキュラムなど 基礎教養科目として「哲学」(4)、「倫理学」(2)、「論理学」(8)、「心理学 A」(6)、「心理学 B」(8)、「教育学 A」(6)、「教育学 B」(7) の 1 単位科目 7 科目を計 41 コマ、総合教養科目として「科学技術と倫理」(4)、「教育と人間形成」(3) の 1 単位科目 2 科目を計 7 コマ、専門教養基礎科目として「心と行動」という 2 単位科目 1 科目を計 1 コマ分、全体で 10 科目 (うち 1 単位科目 9 科目・2 単位科目 1 科目) 49 コマが開講された。「哲学」、「倫理学」、「論理学」、「科学技術と倫理」は人文学研究科の教員と国際文化学研究科の教員、及び 4 人の非常勤講師により開講された。また、本年度も昨年度同様に臨時にシステム情報学研究科の教員によっても 1 コマ分開講された。「心理学 A」、「心理学 B」、「心と行動」は大学教育推進機構、人文学研究科、国際文化学研究科、人間発達環境科学研究科、保健学研究科の教員により、「教育学 A」、「教育学 B」、「教育と人間形成」は大学教育推進機構と人間発達環境科学研究科の教員により行なわれた。 ・今年度の工夫・改善点 本年は、昨年度より新型コロナウイルス感染状況の終息に伴い通常授業が開始されて 2 年目となり、なお手指消毒やマスク着用などの感染対策は継続されているとはいえ、ほぼ通常通りの授業の実施状況となった。昨年度から引き続き、当初懸念されたような不調や混乱を示す学生はほぼ見られず、本年度はおおむね円滑な共通教育が実施されたものと評価される。ここ数年来失われていた対面による直接的な学習情報の伝達が再開されたことが本年度の教授学習上の大きな改善点であった。また、コロナ禍状況下で拡充した BEEF+ による授業資料の提示と配布、課題の提示と回収、双方向のコミュニケーションなどは、対面授業再開後も効率的、かつ、安全に授業を実施するうえでの工夫として、本年度も広く活用された。このような遠隔的なやり取りを可能とするうえで、学生の PC 必携化の普及の役割も大きかったものと思われる。その他、今年度より始まった遠隔授業の活用を目的としたハイブリット・遠隔形式による授業の実施もみられ、その中でも、すべての授業を原則遠隔で実施する授業実施は、遠隔形式での授業の積極的な効果を活用する試みとして特徴的であった。ただし、対面授業と遠隔授業の同時実施については、学生にとって負担となる面も予測されるので、今後も慎重に見守りつつ実施する必要があるものと思われる。校内における遠隔授業の受講スペースの確保や、過度な遠隔による課題提示による学生への負担、教員と学生間での情報伝達の不備などの齟齬も生じかねない。今後は、教育的効果や効率性を注視しつつ、対面形式と遠隔形式の授業の両立について、慎重に吟味検討していく必要があるものと思われる。 ・現状と評価 「人間形成」に関わる問題を多角的に取り上げ、人間形成のありようと思の意義について、基礎教養科目として①哲学・思想領域 (哲学・倫理学・論理学)、②心理学領域 (心理学 A ・心理学 B)、③教育学領域 (教育学 A ・教育学 B) から学習できるよう	

に教育課程が編成されており、基礎教養科目人文学領域の学習目標に沿った講義を提供している。また、総合教養科目として「科学技術と倫理」、「教育と人間形成」という現代的な問題を扱う科目を提供し、現代的なニーズにも応えるよう配慮した科目構成となっている。つまり、「人間形成と思想」教育部会は期待される教育内容をカバーする科目を提供している。また、多くの科目が 100 人以上の講義となっており、抽選となる科目も少なくない事などから、幅広い学部学生にとり重要な教養科目として認識されているものと考えられる。

(3) 課題について

従来「人間形成と思想」教育部会としては、大教室での大規模授業が授業実施上の課題となっていた。新型コロナウイルス感染状況下での遠隔授業の実施は、一時的にこの問題を軽減したかに思われたが、今年度に入り本格的な対面形式での授業が定着したことで、再びその課題が再来したかに思える。100 名以上の受講生に対して、高度な学習内容を効率的に伝達することには多くの困難が伴うと言わざるを得ない。物理的にも心理的にも教員と受講生の距離が空いてしまうことで、双方向的なやり取りや交流がおこないづらくなり、学生にとっても集中力維持の困難などの弊害が見込まれる。ただし、この点については、遠隔授業実施の時期に拡充した BEEF+等を用いた遠隔形式による情報伝達の新たな手段が活用されている面もみられる。自己評価・自己点検シートからも BEEF+を活用した資料の配布、課題の提示、メッセージのやり取りなどの取り組みがみられ、授業実施の効率化が図られた様子が見て取れる。この点では、大人数への資料の配布、感想文や小課題の収集など、以前見られた大規模授業での手間が省略され、かなり実施しやすくなっている面もうかがえる。もちろん、そのみでは大規模授業の課題が解決されたわけではなく、学生への情報の伝達は希薄化しやすく、遠隔形式でのやり取りがそのことに拍車をかけている面もあるかもしれない。また、多様な媒体を通じたやり取りの拡充は、学生から教員に送られる情報量の増加と多様化をもたらしており、教員負担の大幅な増加にも結び付いていることが懸念される。体調不良等により欠席した学生から急な遠隔形式での受講の希望や、時間外に代替的な方法で教授内容を提示するよう求められることも少なくなく、これらのことが過度な教員負担にならないように今後も注意しなければならない。以上のように、大規模授業の中での遠隔手段の導入が教員と学生の問題の解消につながるかどうかについては今後慎重に検討しなければならない。その他、昨年度同様に本年度も教員の体調不良により、急きょ担当教員の変更が必要となる事態が発生した。昨年度に引き続き同様の状況に陥ったことは深刻な事態であると受け止め、今後このようなことが学生にとっての不利益とならないように、部会長、ならびに幹事、その他の世話にあたる教員が適宜連絡を取り合い対応できるように検討する必要がある。

(4) 総合所見

全体として「人間形成と思想」教育部会の講義は必要とされる科目をバランスよく提供しているといえることができる。また、各教員の自己評価点検一覧からも、学生の授業に対する評価は高く、提供される科目の質的側面においても高い水準であるといえる。今後の課題としては、これらの高い水準が、教員個人の多大な負担により実現されていることを鑑みると、教員のサポート体制をいかに整えるか（TA などによるサポート体制の充実）、「遠隔授業」での単位の実質化をいかにして実現するか、対面形式内での遠隔ツールの使用に関する技術的サポートをいかに実現するか、学生からの多様なニーズに如何に対応するか等を挙げることができる。

A 組織構成と運営体制について

- ①基本的な組織構成が適切であり、実施体制・運営体制が適切に整備され、機能しているか（100 字程度）

開講する科目にふさわしい多様な専門性を持つ教員が担当し、実施体制・運営体制は概ね機能している。基本的な組織構成は大学教育推進機構 2 名、人文学研究科 8 名、国際文化学研究科 2 名、人間発達環境学研究科 21 名、保健学研究科 3 名の計 36 名であり、幹事 2 名、代表 1 名を置く体制が整備されている。

根拠資料

教育部会構成員名簿

B 内部質保証について

- ①学生を含む関係者等からの意見を体系的、継続的に収集、分析し、その意見を反映した取組を組織的にやっているか（100 字程度）

各授業で学生とのコミュニケーションペーパー・リアクションペーパー等の利用、質疑応答の時間の設定、BEEF+ のメッセージ機能やメールを使った学生との質疑応答等の工夫がなされている。各クォーターの「授業振り返りアンケート」より学生からの意見を収集・分析し、その意見を反映した取組を行なっている

根拠資料

授業振り返りアンケート結果

- ②自己点検・評価によって確認された問題点を改善するための対応措置を講じ、計画された取組が成果をあげている、又は計画された取組の進捗が確認されている、あるいは、取組の計画に着手していることが確認されているか（150 字程度）

人間形成と思想教育部会では、100 名以上のクラスが多くあり、大規模クラスにおけるインタラクティブな授業実施をいかに限られた資源で行うかが課題である。昨年度より、対面形式を原則とする授業実施となったが、これまでの遠隔ツールの普及に伴ない、各担当者においては、視聴覚教材の使用、リアクションペーパーやミニレポートとそれに対するフィードバックなど、学生参加の促進を目指す努力が活発になされてきている。

根拠資料

前年度までの自己点検・評価報告書、シラバス（今年度の工夫）

- ③授業の内容及び方法の改善を図るための F D を組織的に実施しているか（100 字程度）

組織的な授業ピアレビューに参加し、気づきを得るとともにレポートの提出によりフィードバックも行っている。

根拠資料

ピアレビュー（授業参観）実施に関するガイドライン、ピアレビュー実施科目一覧（教養教育委員会資料）

- ④教育活動を展開するために必要な教育支援者や教育補助者が配置され、適切に活用されるときともに、それらの者が担当する業務に応じて、研修の実施など必要な質の維持、向上を図る取組を組織的に実施しているか（100 字程度）

昨年度より対面形式の授業の再開に伴い、TA・SA の採用も開始された。そのような TA・SA の採用によって、授業補助業務に関して適切に助言・指導を受ける組織体制が再整備されている。

根拠資料

神戸大学 SA/TA 実施要領・ガイドライン、SA・TA 採用者名簿、TA ハンドブック

C 教育課程と学習成果について

- ①当該教育部会が提供する授業の目標が、全学共通授業科目の区分ごとの学修目標に対応したものとなっているか（100 字程度）

「人間形成と思想」に関わる問題を多角的に取り上げ、人間形成のありようと思の意義について、基礎教養科目として①哲学・思想領域（哲学・倫理学・論理学）、②心理学領域（心理学 A・心理学 B）、③教育学領域（教育学 A・教育学 B・教育と人間形成）から学習できるように教育課程が編成されており、基礎教養科目人文学領域の学習目標に沿った講義を提供している

根拠資料
シラバス

②授業担当者に共通目標や学部からの要請を示し、到達目標をそれに沿ったものにする配慮がなされているか（100 字程度）

各教員が共通シラバス等に掲げられた授業の目標等に沿った授業を展開している。多くの教員が小テスト、リアクションペーパー等、及びそれに対する翌週のコメント、簡単なグループワーク課題、映像資料を用いたデモンストレーションの実施などの工夫をし、到達目標に沿ったものにする配慮がなされている。

根拠資料
シラバス

③授業科目の内容が、共通目標や個々の到達目標を達成するものとなっているか（100 字程度）

共通目標を踏まえたシラバスを各教員が適切に実施している。さらに、教育の目的に照らして、レポート課題の導入、小テストの実施、独自の授業アンケートの実施等を踏まえて個々の到達目標を達成するにふさわしい内容となっている。

根拠資料
シラバス

④単位の実質化への配慮がなされているか（100 字程度）

単位の実質化への配慮として、多くの教員がレポート課題の導入、小テストの実施、独自の授業アンケートの実施、予習・復習課題の導入を通じて、学生の理解を確実なものにするように講義を行っている。このような工夫により各学生自主自習を促し、単位の実質化への配慮がなされている。

根拠資料
シラバス、小テスト、レポート課題

⑤教育の目標に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組み合わせ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学修指導法の工夫がなされているか（150 字程度）

教育の目的に照らして、講義の授業形態の組合せ・バランスを適切に保つような工夫をした教育内容、学習指導法が採用されている。人間形成と思想部会が提供する科目は基本的に講義科目であり、100 人を超える大教室科目が多い。そのため、演習や実験・実習等を取り入れることはない。それを補うべく、多くの教員が小テスト、リアクションペーパー等、及びそれに対する翌週のコメント、簡単なグループワーク課題、映像資料を用いたデモンストレーションの実施などの工夫をしている。

根拠資料
シラバス

⑥シラバスに、必須項目として「授業名、担当教員名、授業のテーマ、授業の到達目標、授業形態、授業の概要と計画、成績評価方法、成績評価基準、履修上の注意（関連科目情報）、事前・事後学修」及び「教科書又は参考文献」が記載されており、学生が書く授業科目の準備学修等を進めるための基本となるものとして、全項目について記入されているか（50 字

程度)

「人間形成と思想」教育部会が提供するのには主に基礎教養科目であるが、これらについて同一名称科目のシラバスの授業テーマ・目標を共通なものにしており、授業内容を反映した適切なシラバスが作成、活用されている。総合教養科目・共通専門基礎科目でも、講義内容を反映したシラバスが作成され、活用されている。

根拠資料
シラバス

⑦学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われているか（100字程度）

教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズに配慮されたカリキュラムになっている。例えば、各授業で学生とのコミュニケーションペーパー・リアクションペーパー等の利用、質疑応答の時間の設定、メールを使った学生との質疑応答等の工夫がなされている。また、授業中の配布資料やデータのアップも学生のニーズを満たすものになっている。

根拠資料
シラバス

⑧学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われているか（100字程度）

いずれの講義においてもオフィスアワーや連絡方法がシラバスに明記されており、講義についていくことに困難を感じた学生はいつでも担当教員に連絡を取り、配慮を受けることができる状態にある。また、授業後の感想やコメントなどを通じて、配慮の必要性の把握に努めている。

根拠資料
シラバス

⑨成績評価基準及び成績評価方針に従って、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されているか（100字程度）

人間形成と思想教育部会においては、科目ごとに内容に即した成績評価基準が策定され、それがシラバスを通じて学生に周知されている。授業中に実施する小テストや課題、期末試験など結果により、周知された基準に即して適切に成績評価、単位認定が適切に実施されている。

根拠資料
シラバス、試験答案、成績分布（教養教育委員会資料）

⑩学修目標に従って、適切な学修成果が得られているか（100字程度）

学生による授業評価の結果としての総合評価を見ると、多くの科目で5点満点中平均4点以上の総合評価が得られており、各科目における学習成果が上がっていると考えられる。また、学生からのコメントを見ても、おおむね講義に対する理解度を含めた好意的な感想がよせられている。

根拠資料
試験答案、レポート、授業振り返りアンケート結果